

# 阿蘇市議会第4回定例会



## 9議員が登壇 (一般質問)

### 若者の地元雇用促進で地域の活性化を



河崎徳雄

河崎 地元企業による地元雇用の促進を。

荒木まちづくり課長

現在、関係団体と連携した創業支援、起業支援を進める等、地域経済の活性化と雇用の場の確保に努めています。今後は増加傾向にあるU.I.Jターンの方々への支援と、地元農林商工分野との連携も必要であると考えています。

河崎 消防団や集落の維持、伝統文化の継承など若者の定住化による地域活性化に市民は強い思いを持っている。市職員の採用に当たっては、地元出身者に限定した採用はできないが、何らかの配慮はできないか。

村山 総務課長

地元出身者への配慮については法に抵触することから出来ません。引き続き公平公正な採用を進めてまいります。

佐藤 市長

市職員を希望するのであれば、阿蘇に関心があり魅力を感じた方自らが手を挙げ、勉強しチャレンジされ市職員を目指すことが一番あると思っています。

河崎

作付不能の農地について



林道竹原高塚線

河崎

作付け不能農地に対する対策として、新たに農家が抛出する地

域とも補償制度を活用し、10a当たり4千円の支援が行われる。市独自の支援は。また、小規模復旧事業、過年度災害の対応は、関係機関から要望を受け、制度の緩和や余震等で新たに判明した被災箇所の復旧等については県を要望する等、隨時、支援も検討しています。また、県の復興基金市町村配分で優先順位を付け対応したいと考えています。

佐伯農政課長

策として、新たに農家が抛出する地域とも補償制度を活用し、10a当たり4千円の支援が行われる。市独自の支援は。また、小規模復旧事業、過年度災害の対応は、関係機関から要望を受け、制度の緩和や余震等で新たに判明した被災箇所の復旧等については県を要望する等、隨時、支援も検討しています。また、県の復興基金市町村配分で優先順位を付け対応したいと考えています。

河崎 係争中である阿蘇いこいの村の建物敷地はどこが管理するのか。

阿蘇いこいの村について

まちづくり課長 まちづくり課で管理しております。今後、必要経費も予算計上したいと考えています。

# 阿蘇市が目指すオンラインの世界とは



五嶋 義行

**五嶋** 阿蘇市がオンラインを目標に掲げて、巨大なパワーが生まれ、そしてそれを源にあらゆる分野にチャレンジし続けることによって、オンラインとなるよう魅力あふれる新しい阿蘇を創造、発信します。市民一人ひとりが互いを思いやり、情熱とチャレンジ精神を持つて繋がることで、住んでよかつた、働いてよかつた、訪れてよかつたと実感できるまちづくり進め、唯一無二の阿蘇市となるよう目指します。

**中本建設課長** 熊本県の道路保全課が発表した県下市町村道の通行規制の情報の中で、当該市道の状況を掲載されたもので、復旧において費用及び高度な技術や工法になることから、止むを得ず災害査定を断念した経緯はあります。全線を廃止するような考えは持つておりません。

**五嶋** 廃止は無いということだが、市長の考えは。

**佐藤市長** 地元にとって狩尾幹線は大事な道路であります。今後、阿蘇市の課題として地域、議会も含めた協議を進め、阿蘇市の総意として可能な限り復旧して行く方向で、慎重かつ前向きに取り組んで行きたいと考えています。

**五嶋** 第2次阿蘇市総合計画の阿蘇市が目指すオンラインの世界の分かりやすい説明を。



市道狩尾幹線

の一番上に「人がつながり創りだす新しい阿蘇のONLY ONEの世界へ」を将来都市像として掲げています。人がお互いに繋がりを持つと巨大なパワーが生まれ、そしてそのパワーを源にあらゆる分野にチャレンジし続けることによって、オンラインとなるよう魅力あふれる新しい阿蘇を創造、発信します。市民一人ひとりが互いを思いやり、情熱とチャレンジ精神を持つて繋がることで、住んでよかつた、働いてよかつた、訪れてよかつたと実感できるまちづくり進め、唯一無二の阿蘇市となるよう目指します。



田中 弘子

**田中** 応急仮設住宅やみなし仮設住宅の供用期間の延長は。

**古閑住環境課長** 災害救助法に基づいて供用開始から2年間となっています。8月24日から25日に県の説明会が開催され、自立再建が難しい被災者については、国と県とで協議を進めているところです。

**田中** 応急仮設住宅の利用状況は、16戸で、退去された方が22戸、新たに入居された方が17戸、8月31日現在で133戸が利用されています。

**住環境課長** 東池尻団地を含め16戸で、退去された方が22戸、新たに入居された方が17戸、8月31日現在で133戸が利用されています。

**田中** みなしふ設住宅の状況は。

**住環境課長** みなしふ設住宅は、申し込み総数が162戸で、うち契約をされたのが157戸、8月末までに退去された方が15戸となっています。

**田中** 退去された方々のその後の状況は。

**田中** 応急仮設住宅については、22戸が自宅再建され、うち3戸は阿蘇市外への再建となっています。みなしふ設住宅につきましては、



仮設住宅（旧阿蘇北中学校跡地）

# 被災者の一日も早い自宅再建を

退去された15戸のうち14戸が自宅再建され、1戸は民間の賃貸住宅へ移転されています。

## 道路被害の復旧について

**田中** 被災した道路の復旧状況は。8月末で181件のうち133件の工事が発注済で、36件が竣工しています。未発注の304件は年度内には発注予定で、平成30年度中の完了を目指しています。

**田中** 内牧停車場線狩尾地区の復旧状況は。

**建設課長** 県より9月初旬に隣接する関係者の承諾が得られ発注手続きが進み、10月には発注し年度内の完了予定と聞いています。

**建設課長** 県より9月初旬に隣接する関係者の承諾が得られ発注手続きが進み、10月には発注し年度内の完了予定と聞いています。